

あけましておめでとうございます。暦通りなら、例年より長めのお休みだったと思いますが、皆様、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。本年も当院のHPをよろしく願いいたします。

熊本労災病院も新たな年を迎えますが、医師を含め、職員の異動は4月の年度替わりになりますので、年末と同じ環境で「気分も新たに」というところです。

実際に年をまたいで変わったこととして、2床の個室を、結核を含む感染症患者にも対応できるように改装していた工事が完了し、年末から稼働したことがあげられます。地方紙の報道にもありますように、結核患者の収容機能は、八代市立病院閉院に伴う周辺公的病院への病床や診療機能委譲の一環として当院がささやかながらお引き受けした機能です。中央4病棟の2個室が充当され、工事中は、階下の3階にも工事の影響が及びご不便をおかけしましたが、完成を待っていたかのように結核患者さんの発生があり、その機能を早速発揮することとなりました。

また、クリスマスを前に、くまモンが来てくれました。2年前にも来てもらいましたが、今回はそれを上回る熱気を院内に振りまいて、短時間の来訪でしたが暖かい空気を残して行かれました。それにしても、そのサービス精神には頭が下がります。時間が無い中、患者さんが近くにいれば、必ずハイタッチ、ハグ。お年寄りも、涙を流して喜んでいました。その体力とともに、鍛え抜かれた接遇態度は病院職員も見習うところ大です。

熊本労災病院は、多くの医師派遣を熊本大学に依存しています。異動は上記のように4月ですが、そろそろその人事が取り沙汰される時期となりました。ほとんどの医師は、「医局」に所属し、その意向で一定期間での異動を行います。医局とは、大学の専門診療科が道を同じくする医師たちの集団を形成し、その頂点に教授が存在して、実務を医局長というポストの中堅医師が担い、大学内の診療教育研究などの諸業務に加えて、当院のような学外診療機関への医師派遣も担う組織です。大学卒業後2年間の初期研修を終了した医師が、「入局」という言葉の通り、その専門医集団に加わります。ですから、入局者の多寡は、将来のその領域での専門医師数に直結することで、各医局はずっとリクルートに邁進し、その結果が出るのも今頃になります。しかし、初期研修制度や、その後の専門医育成プログラムの構成など、大学(=医局)に一度も所属することな

く専門医の道をたどる医師も急速に増加し、専門領域の細分化の進行もあって、従来に比し、各医局が小さくなって所属医師も減り、特に地域医療の維持が個別医局の医師派遣ではまかなえなくなる事態になっています。そこで、現在、熊本県は、熊本大学病院と強力なタッグを組み、県内の各基幹病院も協力して、熊本県の地域医療を維持していこうというネットワークを作っています。また、地域枠という、県が修学資金を貸与している学生の資金返済を免じる、卒業9年間の「義務年限勤務」先について、専門性の確立も含めて当該医師のキャリアパスを明確にした計画をたてて今後実行しようとしています。

教授には、本丸である大学での診療研究の発展が至上命題であり、所属人員が少なくなれば、まず大学本体の機能維持に走らざるを得ないことは、教授経験者として極めてよく理解できます。一方、私の今の立場では、働き方改革も踏まえ、八代地域で完結するような高度医療サービスや安心の救急医療を提供するためには、医師をできるだけ多く確保したいところです。これは、県内どの病院の院長もそう考えています。しかし、みんなが各病院、各医局のことだけ考えていれば良い時代は年々限界に近づいています。統括する教授や各院長、そして何より医師各個人が、痛み分けをしながら、負担が偏らないような仕組みを積極的に考えていく時代になりつつあります。熊本市内への医師一極集中の是正は急務ですが、一方、そうならざるをえない、またそれを求める医療環境があるわけで、ただ単に医師を分散させることが県内全域の医療機能向上に寄与するとは限りません。大学病院全体の、戦略的で将来も見据えた広い視野でのリーダーシップのもと、各病院も、地域性や特色を活かした立場で、協力して作戦を実行していくことが不可欠です。上に「痛み分け」と書きましたが、本当に痛みになる様な派遣先があるでしょうか。私自身、小さな町立病院などのいわゆる僻地勤務経験もありますが、専門に関わらず、それぞれ貴重な医師としての修練の機会になったと思っています。私たち医師にとって、どんな環境でも、やるべき事、学ぶべき事はあり、またその存在自体を求められています。そんなことを若い医師に伝え、またその仕組みが熊本で実現できるよう、今年も微力を尽くしたいと思っています。熊本労災病院も、公的医療機関として、医療機能の維持発展はもちろん、医師の育成や派遣にもその機能を活かしていきたいと思っています。

本年も、熊本労災病院をどうぞよろしく願いいたします。